

# まぎの郷 通信

“麦の郷とは” 住民のニーズから  
生み出され、住民の手によって育てられる

January 2022

ソーシャル ファーム ピネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター つれもて/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/創cafe/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637  
〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp



くろしお作業所

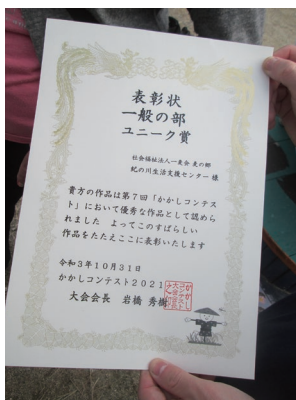


むぎピース



こじか園

毎年、山口地区の案山子コンテストに参加しています。  
今年は、グループ名の果物をモチーフに作りしました。



麦の郷紀の川生活支援センター



## かかしコンテストユニーク賞受賞

### 私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



# あけましておめでとうございます



社会福祉法人  
一麦会・麦の郷

理事長 山本 耕平



みなさま、昨年もたくさんお世話になりました。感謝申し上げます。みなさまにとって2021年はどのような年だったでしょうか。おそらく、新型コロナとの関係を抜きに語るができない年だったのではないのでしょうか。私も、様々な会議で「コロナ・コロナ」と言い続けた年でした。また、2021年暮れからも新たなオミクロン株の登場が私たちを不安に陥れています。

2022年が、この新型コロナと決別できる年であって欲しいものです。もちろん、人類の戦いは、その方向に向かい

つつあります。しかし、この新型コロナの後にどのような社会を築き上げるのかを私たちは考えることができているでしょうか。私は、この新型コロナとの闘いを終えた後の私たち人類の歩みは、「みかけの豊かさを追求してきた過去」から、「国民すべてが共生できる社会=根底からの暮らしの豊かさをもつ社会」への発展を築き上げる新しい社会に転換すべきと考えています。

根底からの暮らしの豊かさは「根強さ」「力強さ」「緩やかさ」「優しさ」等々の言葉で表現されるものではないでしょうか。みかけの豊かさは、それぞれの激しい競争のもとで築き上げさせられましたが、根底からの暮らしの豊かさは、それぞれの共同、協同のもとで育てあげるので。私たちは、今、コロナ禍が終焉を迎えようとする未来に向かって、がむしゃらに生きるのではなく、それぞれが、豊かな生き方を模索していく時にあるのです。

今、和歌山では、がむしゃらに追い求めさせられた結果としてのさまざまな矛盾が市民の暮らしを苦しくさせています。あの六十谷水道橋の崩落もそうであったかもしれません。京都大学の広井教授は、コロナパンデミックを「過度のグローバル化（人・物・金といった三大要素が国や地域を越えて自由に、盛んに行き来すること）や資本主義の拡大成長路線のひずみが明らかになった」事態であると指摘しています。

私たちは、和歌山を「人・物・金といった三大要素が国や地域を越えて自由に、盛んに行き来する」生きづらい社会にするのか、和歌山に「地域内でヒト・モノ・カネが循環するような」生きやすい社会を築いていくのが、今後の世界的な感染症パンデミックから私たちを護り、地域を発展させる考え方になっていくのではないのでしょうか。

私たち麦の郷は、障害者や社会の弱者の為に、その生きやすい社会を築きあげる一翼をになっ



## 紀の国チャレンジド賞おめでとうございます!

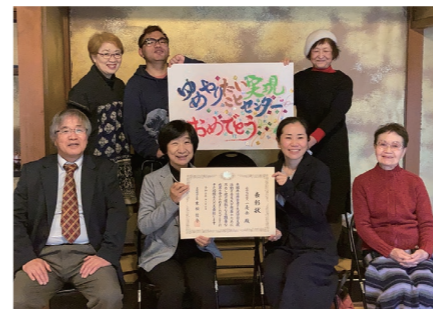


12月3日、和歌山県庁で授与式があり障害者就業・生活支援センターつれもての鈴木栄作さんが、和歌山県知事から紀の国チャレンジド賞を受賞しました。この賞は障害を前向きに捉え、生き生きとした生活を送る方に贈られる賞です。麦の郷の職員となり30年、きょうされん全国理事を12年間務めあげ、現在はわされん副会長、青年学級すばらしき仲間たちの代表を務めておられます。今後も障害者福祉の向上に、ご活躍されることをご期待致します。  
(障害者就業・生活支援センター つれもて 松岡 裕子)

### 鈴木 栄作さんよりコメント

今回、和歌山県より栄えある賞をいただき誠にありがとうございます。受賞にあたりこれまで支えて下さった多くの方々に改めて感謝申し上げます。これからも多くの方のお力添えにお応えし、障害者権利条約に謳われている、障害があってもなくても隔たりのない社会の実現のため、チャレンジ精神をもって、多くの人々に夢と希望を与えられるよう頑張りたいと思っています。

## 文部科学大臣奨励者表彰を受けました



ゆめ・やりたいこと実現センターは、12月7日に文部科学大臣から「障害者の生涯学習支援活動」に係る奨励者表彰をいただきました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、授賞式はオンライン開催となり、粉河山崎邸の大広間で式を視聴することになりました。

授賞式に出席したセンター参加者で連携協議会委員の松下隆志さんは、「やらされるのではなく、やりたいからやっています。来たいから来ています。この前、地域のパン屋さんと自分達のアイデアを出して、パンを作る講座をしました。自分たちのアイデアが形になるのは、とてもうれしい。たまり場にずっと参加してよかった。」と話し、書道講座の講師で夕刻のたまり場に

ボランティアとして来られている名倉くみ子さんは、「たまり場に来てみんなと過ごすのが気持ちすっきりリセットできます。私にとっても大切な場所です。これからもたまり場の活動や講座の取り組みを楽しみながらサポートしていきたいです。」と話してくれました。

ゆめ・やりたいこと実現センターがスタートして3年半ほど。様々な講座や夕刻のたまり場に参加してくれる障害のある人たち、たまり場のボランティアややりたいこと講座の講師のみなさんをはじめ、地域のたくさんの方々に支えられてきました。これからも、地域と繋がりながら、障害のある人の生涯学習に取り組んでいきたいです。そして、このような障害者の生涯学習の場がどんどん広がっていくことを願っています。



(ゆめ・やりたいこと実現センター 尾方 千春・藤本 綾子)

## 1万1700人がつながった!! きょうされん第44回全国大会オンライン

10月29日(金)、きょうされん第44回全国大会が2年ぶりにオンラインで開催されました。全国から人々が集い、笑い、学び合う大切な場がようやく再開されることになったのです。

参加者は全国で約1万1700人!主催者側もあまりの参加者の数に、きちんと映像が皆さんのもとへ流れるか不安だったそうです。

和歌山でも県内の作業所など各箇所で見られるよう映像が流されました。作業をしながら大会を見る作業所もあったそうです。またわされんでは、麦の郷地域交流室に拠点を設け、大会企画の列島リレーや利用者企画を和歌山から全国に発信しました。地域交流室にはワークショッププラットフォーム、麦の郷印刷、てとて、麦の芽ホームの仲間・職員の皆さん約20名が参加しました。



大会は10時から始まりました。各県からの列島リレーメッセージでは前年新型コロナウイルスの影響のため開催できなかった第43回全国大会 in 和歌山のテーマ曲「この街のハーモニー」を歌いました。この日のためにみんな一生懸命練習してきており、感慨深いものがありました。また、利用者企画ではO×クイズが行われ、正解した仲間みんなの嬉しそうなガッツポーズが印象的でした。

エンディングでは、この大会のテーマソング「みんなが主人公のまち」を歌いました。歌詞の中には「こんどみんなとあえたとき なにをはなそうかわくわくするよ」。今年の大会は東日本大震災から10年が経つ岩手県で行われます。今年こそは…そんな思いがこみ上げてくる大会でした。

(くろしお作業所 城 喜貴)

# 紀の国わかやま文化祭2021 第21回全国障害者芸術・文化祭和歌山大会 障害者アート展inきのかわ 紀らり!まちなか美術館

紀らり!まちなか美術館に  
出展しました!



むぎピース



ビックホエールにて  
パネル展示

新庄さん



きいちゃんパネル  
完成!



くろしお作業所



麦の郷和歌山生活支援センター



Po-zkk  
中村さん  
高橋さん



ゆめ・やりたいこと実現センター



紀の川市障害者文化祭  
山崎邸会場



創カフェ 宮坂さん



ソーシャル ファーム ピネル みやじゅんさん



麦の郷紀の川生活支援センター

## 10月3日の六十谷水管橋落下による断水の影響と麦の郷の取り組み



10月3日に発生した紀の川河北地域へ給水する六十谷水管橋落下による断水において、麦の郷事業所では障害児通園施設1カ所、就労継続支援事業所2カ所、生活介護事業所1カ所、グループホーム5カ所が断水の影響を受けました。

通園児施設こじか園では山口地区連合自治会の助けもあり、5日より水の供給を可能として開園を続けることができました。

就労継続支援事業所のうち麦の郷印刷はトイレの使用などに制限がありながらも運営はおこなえましたが、ラ・テルは主な授産科目が食品加工品で、全ての製品を水道管より直結しているボイラーで湯を沸かして製造しているため、今回の断水により製造が不可能となり、約1週間中は通所できなくなり閉所となりました。

生活介護事業所くろしお作業所では貯水庫を空にしないよう、時間があればスタッフが入れ替わり、麦の郷本部より水を自前で作った給水車やポリタンクで運ぶ作業を断水が解消するまで、ひたすら繰り返す日々となりました。

グループホームではくろしお作業所の給水車を借り、生活用水を各ホームに届けました。洗濯はソーシャルファームピネルでおこなってもらい、夕食ははぐるま共同作業所、むぎピースで弁当にして配達してもらい、何とか中間の生活支援を継続することができました。

今回くろしお作業所には尼崎市からの給水車が来てくれ、海南市にある一峰会は自家製の給水車を作製して水を運んでくれました。このように内外の助けを借りて、この緊急事態を乗り越えることができましたと感じています。断水時にご協力ご支援いただいたみなさま、誠にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

しかしこの断水の影響から閉所や一部の仲間が通所できなくなり、仲間の給与保障問題や事業所の運営悪化など、断水だけではない被害も発生しました。今後はわされん第2ブロックと協同しながら和歌山市へ実態を訴えていき、保障の対象となるよう検討してもらおう要望をおこなっていきます。(安全対策委員会 武田 賢二)

## 第21弾 障害者週間 広がれネットワーク ~みんなの願いを語る会~

今年も『障害者週間 広がれネットワーク』が開催され、第21弾を迎えることになりました。「障害のある人が地域で豊かに生活できる社会を実現する」為、コロナ禍で社会情勢が不安ななかでも、出来ることを考え、「みんなの願いを語る会」や「広がれアートプロジェクト」・「つながろうリモート研修会」と色々なイベントを開催することができました。

「みんなの願いを語る会」では、『障害をもった方の社会参加』というテーマで、センターでの地域活動支援を通して、どのような社会参加につながっていくかを障害のあるこどもさんの御家族にお話させていただく機会を頂きました。

地域活動支援センターが、メンバーにとって、かけがえのない居場所になっていると改めて感じました。障害のある人が、地活に行くことを決めて家を一步出た時から、社会参加が始まります。勇気を出した最初の一步を私たちは大事にし、みんなで一緒に考えて自然なかたちで話せる雰囲気作りを目指したいと思います。メンバーの思いを受け止め、自己決定の支援ができるように、日々、取り組んでいきたいです。

お話しさせていただいた後のグループワークでは、「みんなの願いを語る会」に興味をもち、参加したいとおっしゃるお母さん方がいらっしゃいました。これからもひとりひとりの願いを届ける為に、この活動を継続し、大切にしていきたいです。

(麦の郷紀の川生活支援センター 片木 美千代)



## できない自分もいいじゃないか

日々誰もが、こうありたい自分と実際の自分とのギャップに苦しみ、できない自分に絶望したり落胆したりしているのではないのでしょうか。

人に甘えたり、頼ったり、依存したりすることは悪いことなのでしょうか。今できなくても挑戦や失敗を繰り返してできるようになることもあります。

誰もが長所短所があるのは当たり前、その人の長所に注目して伸ばしていこうとよく聞きます。

しかし、創の取り組み中に自分語りをしてくれた仲間の言葉によって、今までの自分自身の価値観をひっくり返されました。

創には毎月1回、しゃべくる会という取り組みがあります。設定したテーマに対して、意見を言い合ったり、自分語りをしたりして普段聞けない仲間の思いや考えを知ることできます。

10月11月のしゃべくる会では、「どうやったら人にうまく頼ることができるのか」というテーマで話し合いました。

話し合いの中では頼ることがいいことだと思う人もいれば、迷惑になるのではないかと、もう少し頑張ればできるから…と頼れないことを悩んでいる人もいました。

人に頼れないのは「自分の弱みを見せたくない」「何でも自分でできないと駄目なんじゃないか」という価値観をもっているからなのではないか。その自分自身が持っている価値観を変え、納得しないと人に頼ることにつながらないという意見がありました。

人に頼ることを苦手とするある仲間の「できる自分と同時に、できない自分も認めてもらいたかった。」という言葉が、誰もが抱える生きづらさを少しでも軽くするキーワードだと思いました。

できることや得意なことがある自分と、できないことや不得意なことがある自分、両方存在していることが自分なのだ、自分自身や家族、周りの人たちに受け入れられ、認められることでもっと生きやすくなるのではないのでしょうか。

できない自分でもいいじゃないか！まずは私自身からできない自分を認めてあげたいと思います。

(ハートフルハウス創 圓山 歩実)

## 農業を体験する中で心と体の回復を目指す Rework支援センター「ANEW (アニュー)」開設

近年、うつ等のメンタルヘルスに課題を抱え休職を余儀なくされ苦しむ人たちが非常に多くなってきています。2020年に厚生労働省が行った労働安全衛生調査では、過去1年間にメンタルヘルスの不調により連続1カ月以上休業した労働者又は退職した労働者がいた事業者の割合は9.2%となっています。

このようにメンタルヘルスに課題を抱える人たちが増加した原因として考えられるのが、利潤を第一に考える社会の中で労働者を使い捨てる労働環境の悪化と、それに伴い人間の価値基準が競争に強く打ち勝ちバリバリ仕事ができるか、できないかといったものになっているからだと思います。そのような社会の中で打ちのめされ、「できる自分ではないと社会から認められない」「できない自分は不必要な存在」と思い込みメンタルヘルスの不調を起こします。

一麦会では、このような社会的課題の解決のため今年新設された和歌山県 農業によるメンタルヘルスクア推進事業推進事業の委託を受け『Rework 支援センター ANEW(アニュー)』を開設しました。一般的にRework(リワーク)というと、社会適応し職場復帰・再就職するための訓練と捉えられることが多いと思います。しかし、一麦会がこの事業を行うからには、単にリワーク(職場復帰、再就職)ではなく、いったん十分な休息をとり、農業(農作業体験)を通して生活リズムを整え、土と人との温もりの中で心の安定を図り社会参加を目指すことを目標にし、競争的価値観からの脱却と新しい価値観の創出、その人らしさが十分に発揮できる「生」と「活」を共に模索したいと思います。

ご興味のある方は、ぜひお問い合わせください。お問い合わせ先 社会福祉法人一麦会 「Rework 支援センター ANEW (アニュー)」0736-60-8233 (創カフェ内)

(和歌山県 農業におけるメンタルヘルスクア推進事業 野中 康寛)

## カダテラスでBBQ

残暑から一転、一気に涼しくなった 10月22日、叶夢向のみんなでBBQをしました。淡島神社の少し先、老舗旅館「加太海月」にある、紀淡海峡から大阪湾一望の絶景オーシャンビューテラスが広がるその名も「カダテラス」でBBQです!!

先週までなら涼しく感じたであろう海風もこの日は寒く感じられる中でしたが、待望のお肉が運ばれてくるとみんなの目の色が変わり、一人分が豪華でかなりの量だったのですが、あれよあれよという間になくなり、気が付けば、ほとんどの机で完食状態。

満腹になったお腹をさすりながら、パノラマビューを堪能しました。

(叶夢向 藤本 数馬)



## 麦の郷印刷レクリエーション



天候に恵まれた 10月下旬。楽しみにしていたムリーノへのランチレク。昨年同様コロナ禍で外出レクは年に1度。10月のランチはプレートにどっしりと色鮮やかに盛り付けられた人気の口コモコです。お家のハンバーグとはちょっと違う、洒落たランチに皆テンションもMAX。「野菜の味が濃い!」「なんか苦い」「それはわさび菜」色んな声が飛び交います。ドリンクは季節を感じるフルーツジンジャーをオーダーした人も。皆顔が綻び「美味しかったね」と口々に言いながら、仕事とはまた違った一体感を味わえた一時となりました。

(麦の郷印刷 辻岡 敦子)

## 年末の清掃ボランティアに感謝

昨年の12月14日、関西電力送配電株式会社和歌山支社の方々ボランティアで麦の郷本部の掃除に来てくれました。昨年はコロナ禍のため中止となりましたが、今年で16回目になります。なかなか手が届かない蛍光灯や窓などの高いところの掃除をしていただき、とてもありがたいです。本当にありがとうございました。

(ソーシャル ファーム ピネル

山本 哲士)

## くろしお作業所クリスマス会2021

くろしお作業所クリスマス会が12月23日(木)に、今年も規模を縮小してではありますが行われました。クリスマスソングをみんなで歌い、ひまわり班の仲間と各班の代表メンバーで作ったケーキを頂きました。そしてクリスマス会のメインイベント、みんなが一番楽しみにしているプレゼント交換!みんな、それぞれ貰ったプレゼントを早速開け、「こんなプレゼント貰った~」と嬉しそうに報告し合っていました。素敵なクリスマス会を企画してくださった実行委員会の皆様ありがとうございました。

(くろしお作業所 川崎 愛香)



## こじか園もちつき



12月8日(水)にこじか園では親子でもちつきを行いました。子ども達は普段あまり目にしない杵と石臼に興味津々で、おもちがつきあがる様子を身を乗り出して見ていました。職員が一

生懸命つく姿に自然と「がんばれー!」という声援も。つきあがったふわふわのおもちは伸ばしたりちぎったりしながら、親子で一緒に丸めました。最後に試食用のおもちにきなこをたっぷりかけて食べ、五感を通じて日本の文化に触れた子ども達。コロナ禍のため、例年の様に実際におもちをつくという体験はできませんでしたが、親子でおもちつきの雰囲気味わいながら、楽しいひと時を過ごしました。

(こじか園 藤丸 祥子)